

外国人子女教育コーディネーターとしての実践

大泉町教育委員会外国人子女教育コーディネーター

山田 恵美子

1 めざす姿（資料1）

- ・成長の度合いは一人一人違っている。
- ・子どもを取り巻く環境は、常に注意深く見守っていく。
住所・保護者の勤務状況・一時帰国（退学）・健康状況など

2 受け入れに際して（様式1）

-  言葉は通じなくとも「あなたを受け入れます。」というメッセージは伝わっている。
- ・家庭の様子や学習の様子を把握する
- ・できることや得意なこと、趣味などは必ず聴取しておく。
- ・留意すべきこと（アレルギーや宗教など命やアイデンティティーに関わることは細心の注意を払い
学校内連携を確実にしておく。）

学習前チェック

- 学習歴（未学習の有無確認）
- 学習場所（現地校の立地場所・公立や私立など）
- ひらがな・カタカナ・ローマ字の把握状況
- かけ算九九・繰り上がり・繰り下がり・分数の徹底状況

3 担当者としての関わりと連携の必要性

- ・A小学校の成果と課題（資料3）
- ・担当者が一人がかかえない。組織として対応することが必須。→ 管理職を味方に！



4 教材の工夫

・教科指導

国語 本文にルビをつける。・・・指導書に添付されているCDを活用
本文を分ち書きにする。
本文の簡略文をつくる。
本文の翻訳文をつくる。

・日本語指導

単文をつくる学習・・・基本文型とバリエーションの支援
ひらがな学習・・・お一人様カルタ（コロナ禍対応）

5 その他（質疑）

(資料1)

めざす姿

入学	編入学	転入学
幼・保就学児 未就学児	外国から 外国人学校から	他の公立学校から

多言語サロン (プレ指導)

各小中学校 (個別の指導計画)

○適応指導 <日本の生活に慣れる>

- ・社会や学校のルールを知る
- ・文化や習慣に慣れる
- ・コミュニケーションが図れる (日常言語ができる)

○学習指導 <日本語指導>と<教科指導>

- ・<日本語指導>
 - ① オリエンテーション期 ②初期
 - ③ 中期 ④移行期
- ・<教科指導> *学習言語
 - 学年相当の学習 国語の文章題・読解
 - 作文 問題文を読む

小学校 適応指導 学習習慣指導
 中学校 生徒・進路指導 進路学習指導

目標・夢を持つ

進路選択 (キャリア教育)

日本の中学校
 日本の高等学校 (高校入試)
 専門学校・大学 (大学入試)

帰国
 退学
 外国人学校

職業選択

納税できる社会人



給食 食べたことない味?!
 大丈夫かな?不安!

基礎となるもの

ひらがな
 カタカナ
 50音図
 数字
 足し算 引き算
 かけ算九九
 漢字 (1・2年生)

*学習言語~文章題~

たすとは書いてない
 けれど・・・足し算
 あわせて
 ふえると
 みんなで
 ぜんぶで

特別な支援

外国籍児童就学説明会 (9月)
 外国籍生徒進路説明会 (6・10月)
 多言語サロン(火・土曜日)

個別の指導計画

- 日本語指導が必要な児童生徒には、「特別の教育課程」による日本語指導を行うことが求められています。(文科省2014年4月より)
- 日本語指導が必要な児童生徒とは、「日本語で日常会話が十分できない児童生徒」及び「日常会話ができても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じており、日本語指導が必要な児童生徒」を指します。
- 生まれた国だけでなく、言語や文化の違い、そこでの教育環境も全く異なる児童生徒が、私たちの学校と一緒に学んでいくためには、一人一人の児童生徒の今までの学習歴や環境、興味関心など、また現在の日本語能力を把握して、個に応じた「個別の指導計画」が必要となります。
- そこで、町研究所では、2018年度より日本語教育研究班を復帰して、大泉町としての「個別の指導計画」作成に取り組んできました。国としてのサンプルは提示されていますが、運用のしやすさから各自治体の実態に合わせた「個別の指導計画」が必要となります。
- 大泉町の「個別の指導計画」(別紙)
 - 様式1(児童生徒に関する記録)・・・2018年度に作成、運用中
 - 様式2(指導に関する記録)・・・2019年度作成、試行中

•見えてきたこと・成果は？

- 大泉町としての「個別の指導計画」形式が共通理解のもと明確化されたため、全町同時進行で作成し、活用が始まっています。
- 児童生徒の日本語能力の状況や身に付けさせる力が明確となり、指導の重点化を図れました。また、課題が具体的となり、次年度への引継ぎが円滑に行われる傾向が出てきています。
- 学級担任、日本語学級担当、日本語指導助手の情報共有が必須となり、個別指導の質の向上につながりつつあります。

•課題や今後の展望は？

- 個別の実態把握の仕方や教材等の焦点化を図るための指導者のスキル向上がさらに必要になっています。
- 「個別の指導計画」に基づく指導方法の工夫・改善、蓄積された教材や指導資料の整理・活用を通し、指導力向上を図る必要があります。

特別の教育課程を作った成果が本当に発揮されるためには、日本語教育に携わる関係者だけでなく、担任の先生を始め管理職・全教職員の理解と協力が必須です。在籍学級での様子、特別教室での姿、部活動時の様子など、情報共有することで、それぞれの学習の場で成果が見られるようになります。

また個別の実態把握のスキルは、外国籍児童生徒のみではなく、どの子どもにも対応する基本的なスキルにもなります。

大泉町教育委員会教育指導課
外国人子女教育コーディネーター

山田 恵美子

個別の指導計画

指導要録ではないので、フルネームではなく、テストに書く名前を書くことよ。

①作成年月日 令和 年 月 日
 ②作成者 ()

フリガナ ③児童生徒名 (通称)	サンプル さんぷる		④性別 女	⑤国籍 ブラジル	プルダウニリストから選ぶ 日本						
⑧住所 〒370-0535 大泉町 寄木戸〇〇〇			⑥出生地	2007 年 7 月 19 日							
⑨入国年月日			⑩受入学校名 (年月日)			西小学校 6年生 年 月 日					
⑪家族構成	続柄	氏名	国籍	日本語理解の状況(翻訳・通訳が必要なら○)							
				文書翻訳	面談等	連絡先・その他					
	父	△△ △△	ブラジル	○	○	080- スバル2交代勤務 来日20年					
	母	□□ □□	ブラジル	○	○						
	姉	◇◇ ◇◇	ブラジル	○	○						
	同居の家族のみを記入		プルダウニリストから選ぶ		携帯番号は必須 保護者が連絡先を持っていない場合は、友人や通訳など、連絡が取れる人を必ず確保しておく。就職先を連絡先にするると突然変更になる場合があるので、要注意。						
⑫家庭内使用言語と状況		父	ポルトガル語								
		母	ポルトガル語								
		姉	日本語								
		家庭内言語は、基本的に共通した母語があるが、国際結婚であったりすると、どちらかの言語か、つたない日本語の場合がある。また家族の中で、基本とする母語が違うと日常生活以外の言葉が通じないことがある。									
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	備考	
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	プルダウニリストから選ぶ。または記入する。母国の学校の場合は、私立・公立の別を把握しておくことよ。				
⑬在籍学校	ブラジル人学校	ブラジル人学校	ブラジル人学校	ブラジル人学校	ブラジル人学校	西小					
⑭生育歴・学習歴	外国の保育園・幼稚園等に通っていた				小5 3学期～小6 6月まで不就学状態						
支援状況	母国・日本での状況 公立・私立幼稚園や保育園名を具体的に記入				教育の空白期間があるときは必ず明記する						
	学校外		塾(公文でひらがなを学習)			日本語習得のための学習状況を把握して、今後の学習計画の参考にする					
			国際交流協会日本語学習								
⑮進路希望	本人	日本で進学・就職				保護者	日本で進学・就職				
⑯その他(健康・食生活・宗教・集金・趣味・特技・部活など)	宗教上給食の制限がある				日本の学校進学や帰国希望かなど中学卒業後の希望など						
	アレルギーがある				アレルギー、宗教からくる食べられない食品、などは正確に聞き取り、他との情報交換をする必要があるかを判断する。趣味や特技、好きな教科などは必ず聞き取り、今後の学習に役立てる。						
	日本の学校への不安が大きい										
	算数・ダンスが得意										

個別の指導計画

作成年月日 令和 年 月 日

フリガナ 児童生徒名 (通称)			性別	国籍							
			出生地								
			生年月日		年	月	日				
住所	〒 大泉町										
入国年月日	平成	年	月	日	受入学校名 (年月日)	学校	年	月	日		
家族構成	続柄	氏名		国籍	日本語理解の状況(翻訳・通訳が必要なら○)						
					文書翻訳	面談等	連絡先・その他				
家庭内使用言語と状況											
学年 (年度)	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	備考	
在籍学校											
生育歴・学習歴											
支援状況	学校内	令和3年度	週		時間				週		時間
			週		時間				週		時間
			週		時間				週		時間
	学校外										
進路希望	本人						保護者				
その他 (健康・食生活・宗教・集金・趣味・特技・部活など)											

◆母語での様子											
・母語での教育を受けたことがある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/> 本人からの聞き取り					
・母語での日常会話ができる <input type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/> 家族からの聞き取り					
・母語で書かれた学年相当の文章を読むことができる <input type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/> 母語話者の支援者からの聞き取り					
・母語を使って学年相当の文章を書くことができる <input type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/> 母語の学校の成績表 成績表 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし					
・母語は現在全く使っていない <input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/> 母語対応テストの結果(テスト名)					
◆日本語での様子 (DLA対話型アセスメント)						JSL評価参照枠のステージ					
はじめの一步 /55 0% 実施日 //						1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6					
※話す、読む、書く、聴く、教科学習に参加する力等からできることを中心に課題等も記入											
◆指導目標											
▼大目標①②③から選択											
#N/A											
日本語指導プログラム											
4月	5月	6月	7月	8.9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
◆指導計画											
指導計画				評価(指導評価・内容・方法)							
				前半(4月～8月)				後半(9月～3月)			
〔日本語指導〕 【 】											
〔教科指導〕											
◆課題や来年度に申し送りしたいこと											
学校長			印			指導者			印		
学級担任			印						印		
指導場所			取り出し指導時間数			週			時間 通級開始日(退級日)		

◆母語での様子 プルダウンリストから選ぶ

・母語での教育を受けたことがある	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> 本人からの聞き取り
・母語での日常会話ができる	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input checked="" type="checkbox"/> 家族からの聞き取り
・母語で書かれた学年相当の文章を読むことができる	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 母語話者の支援者からの聞き取り
・母語を使って学年相当の文章を書くことができる	<input type="checkbox"/> できる <input checked="" type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 母語の学校の成績表 成績表 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
・母語は現在全く使っていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 母語対応テストの結果(テスト名)

◆日本語での様子 (DLA対話型アセスメント) JSL評価参照枠のステージ

はじめの一步 35 /55 64% 実施日 12月5日 1 ・ 2 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6

※話す、読む、書く、聴く、教科学習に参加する力 実施日記入 とを中心に課題等も記入

できた枚数/実施した枚数 できた数を入れると自動的に%が記入される

{書き方} 前半は、できること、後半は課題を記入
4観点テストを行った場合には、その観点について読み取れた内容を記入 1観点だけでもよい

総合的なみとりから、ステージを決め、カーソルの色を黒にする

◆指導目標 ▼大目標①②③から選択

③ 教科等において、課題をつかむ・探求する・まとめる等の様々な学習活動に日本語で参加することができる。

プルダウンリストから数字を選択すると文章が自動的に記入される

選択する項目は、JSL評価参照基準のステージにより決まっている

	4月	5月	6月	7月	8.9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日本語指導プログラム	サバイバル～6ヶ月(低学年) ～3から4ヶ月(高学年)				日本語基礎 文字・表記・語彙・文法～2年間(低学年) ～1年間(高学年)							
	技能別日本語 (聞く・話す・読む・書く)				日本語と教科の統合学習				教科の補習(適宜)			

◆指導計画

指導計画	評価(指導評価・内容・方法)	
	前半(4月～8月)	後半(9月～3月)
<p>[日本語指導]</p> <p>【話す4-c】</p> <p>日本語や母語の学習状況や、課題から、特に力を入れて指導したい項目を4観点の学習目標項目例の中から1～2選び、記入</p>	<p>具体的に、行った内容や手立てをやってみたところ、変化が見られた部分やあまり効果が見られないことなど結果を記入 指導内容や目標例が変わる場合にはその目標例を新たに付け直す</p>	<p>前半の結果から、特に力を入れて指導した内容について、どう変化したかを成果及びなぜ失敗したか等、継続する課題を記入</p>
<p>[教科指導]</p> <p>特に身につけさせたい力を学年相当の学習内容とリンクさせ、具体的な言葉で記入</p>		

◆課題や来年度に申し送りたいこと

顕著なことだけを2行程度にまとめる
はじめの一步再実施結果があれば記入

学校長	印	指導者	印
学級担任	印		指導助手も含む
指導場所	日本語学級	取り出し指導時間数	週○時間 通級開始日(退)

変更があった場合も記入 (例 週3→週2)

(資料3) A学校の成果と課題

1 教室環境整備

- ロッカーに引き出しを準備しインデックスをつけて分類することで誰が見ても資料がどこにあるかわかるようになった。
- △いつだれが見学に来てもいいように見せる収納とかくす収納を工夫していく。

2 プリント整理

- △紙ベースで保存されていて、だいぶ古くなっているものもあるので、PCでデータ化すべきだが、まだ手がつけられなかったので次年度に引き継ぐ。

3 カルテ作成

- 外国籍児童のくわしい情報を一覧にしておくことで、その子の家庭状況などを共通理解できる。今年度分を修正して次年度に引き継ぐ。
- △他の児童名簿とデータを連動できるようにするとベスト。

4 日学連携推進委員会の活性化

- それぞれ担当の外国籍児童の様子を個別資料として用意して話し合いを進めることで、担任の先生とより綿密な意見交換ができた。これからも定期的に行っていく必要がある。

5 かけ算九九指導

- 2年生で習う月の少し前から、昼休みに歌ったり踊ったりしながらなじませる。九九カードにシールを貼りながら励まし、全部できるまで根気強くつきあい、ミニ賞状で賞賛する。最後は全員が九九を覚えることができた。

6 昼休みちょこっと学習(たし算、ひき算、くりさがり)

- 1年生を対象に、家庭の協力がなかったので、宿題の計算カードができず学習の進まない児童に向けて、1学期の昼休みに計算カードを使って、くりかえし計算させる支援を行った。担任の先生からは、計算が速く正確にできるようになり、一斉指導しやすくなったという声を聞くことができた。
- △かけ算九九のように達成度が確認できるように工夫(例えばクリアー時間を段階的に設定するなど)すれば、より意欲を持って取り組むことができるだろう。

7 宿題ポストの設置

- 子ども達が手紙をポストに出す時のわくわくする感覚で、宿題をポストに投函するように宿題ポストを設置する。その結果、家庭学習の習慣がついたり、家庭学習時間が増えた。
- ポストだけでは、意欲の継続につながらないので、宿題が継続してできるよう、賞状やカード、シールなどを活用したことは効果的であった。

8 ポルトガル語のカウンセラーの設置

- 日本語では気持ちをうまく伝えられない外国籍児童とその親が、カウンセラーと母語で会話することで、もやもやする気持ちをはき出すことができ、教室でも子ども達が明るくすごせるようになった。また、週に一度日本語学級担当と打ち合わせを開いて、カウンセラーから話せる範囲内でその児童の状況を聞き、指導に必要なことを担任の先生に伝えることで、指導に役立てられた。児童の情緒面に働きかけができたので、安定して学習に取り組めるようになった。全体的に、カウンセリングを受けた児童は、精神的に成長が見られた。

9 日本語学級内のケース会議(週1回)

○週1回、退級児童や転入、編入児童の共通理解を図り、問題点を話し合うことで、複数の教員と通訳で共同で行う指導の一本化につながった。頻繁に定期的に続けていったほうがいい。

10 特別支援学級との連携強化

○特別支援学級の外国籍児童に指導助手と協力しながら指導した。日本語での指導が困難な外国籍であり母語での支援をした。

11 電話対応

△渡した書類(翻訳文)などには目を通さず、電話で質問してくる親が多い。出勤時間前から電話が鳴っていて、1日中日本語指導助手が対応しなければならなかった。

(改善点) 学年だよりなどの訳文に、電話受付時間は8:20~何時までと決めた時間をくり返し明記する必要がある。

⇒(例) 連絡を取りたいときは、こちらが保護者にあわせる。お昼時間に時間を決めて保護者携帯に連絡するなど。

12 翻訳文の扱い方

○日本語学級に通級している児童には、日本語学級での学習の様子を家庭に詳しく知らせるために、日本語学級の通知表の所見を指導助手に母語で翻訳してもらって配布している。(ポルトガル語版とスペイン語版)

⇒どこまで翻訳が必要かが問われている。

○月始めには、各学年の学年便りの翻訳を作成し外国籍児童に配布している。(ポルトガル語版のみ) 行事予定などの連絡が円滑にできている。

○保健便りについては、連絡事項が多い時には、その都度外国籍向けに翻訳文のものを作成し配布している。連絡が円滑にでき、持参する物などが正確に揃うようになってきている。(ポルトガル語版)

13 校歌指導(昼休み)

○最初に歌詞を読み、通訳してもらうことで、「今まで分からなかった歌詞の意味がよくわかった。」という児童の声を聞くことができた。

△楽しんで参加している児童がいる反面、子ども達にとって大切な休み時間で、遊びたい児童も多いので3回くらいでもいいかもしれない。

【教材の工夫】 単文をつくる学習 基本文型とバリエーションの支援



【教材の工夫】 ひらがな学習 お一人様カルタ（コロナ禍対応）

